社会科《歴史的分野》年間指導計画《歴史的分野》・評価規準【第7学年】

学校番号14　東京都板橋区立上板橋第二中学校

月	単元名	時数	学習内容	各単元の観点別評価規準 ①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解	評価方法・資料等
4	第1部　歴史の流れと時代区分 第1章　歴史の流れと時代区分	4	・歴史人物カードを使ってみよう ・時代の移り変わりと時代区分	・歴史上の人物の働きやさまざまなできごとについて関心をもち，意欲的にほかの生徒に説明している。		・歴史上の人物を，活躍した時代，身分や地位，業績などをテーマに適切に分類している。	・歴史上のできごとについて，西暦，世紀，元号，時代区分などを使って「いつ起こったか」を適切に説明している。また，原始，古代，中世，近世，近代，現代が，〇〇時代といった時代区分のどの時代と対応するのかを理解し，その知識を身につけ，歴史上の人物が生きた時代区分を適切に説明してい	・授業中の諸活動の観察…①②③④ ・ノート…①②③ ・ワークシート…①②③④ ・小テスト…①④ ・定期考査…②③④ ・レポート…①②③④
5	第2章　歴史の調べ方　まとめ・発表の仕方	8	・調べるテーマを決めよう ・情報を集めて調べよう ・結果をまとめて発表しよう	・身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を高め，小学校などで学んだ地域の人物，地域の気になる建物・風景，遺跡・遺物，行事・風習や，身近な人の話や言い伝えなどから，話し合いをもとに調べるテーマを適切に決めて，意欲的に調べようとしている。	・野外調査や聞き取り調査を通して，わからなかったことや新たな疑問などを日本の歴史の大きな流れと結びつけて考え，自分の予想を根拠をもとに適切に表現している。	・身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統や文化に関するさまざまな資料を収集し，予想に関連のある情報を適切に読み取ったり，事実と事実でないことを区別するなど記録を適切に整理したりしている。		
6	第2部　古代国家の成立と東アジア 1章　人類の登場から文明の発生へ	5	・人類がたどった進化 ・世界各地で生まれる文明㋐ ・東アジアに生まれた文明㋑ ・宗教の誕生と広まり㋒	・世界の古代文明や宗教などについての関心を高め，意欲的に追究し，さまざまな文化遺産を尊重しようとしている。	・古代文明と宗教の関係について地図や資料をもとに考察し，仏教，キリスト教，イスラム教などのおこった地域が，それぞれインドや西アジアなどの世界の古代文明地域と重なることなどについて考察し，適切に表現している。	・世界の古代文明について，成立した年代，文明が生まれた地域，文明の特色を表で適切にまとめている。	・文明の始まりを示す都市のおこりと金属器や文字の使用などの特徴を理解している。 ・中国文明が日本に与えた影響や，漢の時代の中国と周辺諸国との関係について理解している。	
7								
9	2章　東アジアの中の倭（日本）	4	・稲作による生活の変化 ・ムラがまとまりクニへ ・鉄からみえるヤマト王権	・縄文時代や弥生時代の人々の暮らし，クニが出現した経緯，ヤマト王権と大陸との関係などについての関心を高め，意欲的に追究し，遺跡や遺物などのさまざまな文化遺産を尊重しようとしている。	・弥生時代には土地や水の利用をめぐる争いがあったことを，佐賀県の吉野ヶ里遺跡で発掘された，柵と深い濠に囲まれ，物見やぐらがある大きな集落の跡や，矢がささった人骨などのような具体的な事例による根拠にもとづいて適切に表現している。	・中国の歴史書から，紀元前１世紀ごろには100余りの国に分かれていたこと，１世紀の半ばに，奴国の王が漢に使いを送り，金印を与えられたこと，３世紀には邪馬台国の女王卑弥呼が30余りの国を治め，中国に使いを送って倭王の称号と金印，銅鏡を得ていたことなどを読み取っている。	・渡来人が伝えた技術について，土器を高温で焼く技術が伝わり，これまでよりも丈夫な須恵器が生産されるようになったことなど，具体的なことがらを理解し，知識を身につけている。	
10								
11	3章　中国にならった国家づくり	5	・ヤマト王権と仏教伝来 ・律令国家をめざして ・律令国家でのくらし ・大陸の影響を受けた文化㋒	・律令国家の確立と天皇や貴族の政治の展開，古代の神話・伝承から想像できる当時の人々の信仰やものの見方などについての関心を高め，意欲的に追究し，古代までの時代の特色をとらえようとするとともに，さまざまな文化遺産を尊重しようとしている。	・仏教を取り入れた理由や遣隋使を派遣した目的を考察し，それぞれの影響についても適切に表現している。 ・班田収授法と墾田永年私財法が定められた理由を，それぞれ具体的な制度上の目的を中心にして，適切に表現している。	・大宝律令によって生まれた，天皇を頂点とし，太政官が政策を決め，その下の八つの省が実施にあたる中央政府（朝廷）のしくみや，地方を国・郡・里に分け，中央から派遣された国司が，郡司や里長に任命された地方豪族を監督する地方のしくみなどを本文や図などから適切に読み取っている。	・蘇我氏と聖徳太子が協力して行った政策，隋との結びつきが必要だった理由，仏教が果たした役割を理解し，その知識を身につけている。 ・唐にならった国づくりをめざす過程で，初めてつくられるようになったもの（戸籍や律令など）を説明することができる。	
12	4章　展開する天皇・貴族の政治	4	・権力をにぎった貴族たち ・芽生える日本独自の文化㋓	・平安京における貴族の政治や文化の国風化などについての関心を高め，意欲的に追究し，古代までの特色をとらえようとするとともに，さまざまな文化遺産を尊重しようとしている。	・藤原氏が政治の実権をにぎり続けることができた理由を考察し，系図などの資料をもとに適切に表現している。		・桓武天皇が平安京に都を移した理由，平安時代に幼い天皇が即位しても問題がなかった理由，地方の政治が乱れていった背景について理解している。	
1								
2	第3部　武家政権の成長と東アジ 第1章　武士の世の始まり	5	・各地で生まれる武士団 ・朝廷と結びつく武士 ・鎌倉を中心とした武家政権 ・ 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化	・武家政権の成立とその支配の広まりなどについての関心を高め，意欲的に追究し，中世の特色をとらえようとするとともに，さまざまな文化遺産を尊重しようとしている。また，武家政治の特色を考えるときに，古代の天皇や貴族の政治との違いを見つけ，自分の言葉で表現しようとしている。	・荘園が増えていくなかで，荘官，藤原氏や東大寺，国司たちが考えたことを推理し，自分の言葉で適切に表現している。 ・平清盛が権力を握るようになった理由を考察し，具体的な事実をふまえながら自分の言葉で適切に表現している。	・人々が武装してみずからの力で紛争を解決するようになった背景を適切に読み取り，流れ図などで適切にまとめている。 ・鎌倉時代の新しい仏教について，開いた人とその教えを読み取り，表を用いて適切にまとめている	・天皇の子孫である源氏や平氏が,各地の武士団を広くまとめ，武士の棟梁となっていたことを理解している。 ・平氏政権の経済的な基盤が何であるかを理解し，その知識を身につけている。 ・鎌倉幕府と東国の武士による支配が，西国にも及ぶようになったきっかけについて理解し，その知識を身につけている。	
3								
配当時数合計		35						